

## 平塚柔道物語 6 2

## かえるの子はかえる

平塚柔道協会 会長 奥山晴治

平塚柔道協会の中心指導者・真田州二郎が中学校教師（当時、大野中学校）になったのが平成9年春のことである。そこから彼の柔道への情熱人生がスタートした。中学から始めた3人の女子部員をいつの間にか県の優秀選手に育ててしまった。大野中学三羽ガラスである。この3人の活躍により、5年目には団体戦で全国大会出場をすることになる。ねばりの塩澤茜、努力の青木愛、一生懸命の仁藤愛である。この3人の活躍で大野中学校は柔道の強豪校に変わっていった。私はこの3人について、平塚柔道物語の10号、11号、12号と3回にわたって述べているが、彼女たちの全国大会出場の時から、早くも11年の歳月を経ている。中学校で柔道を学び、真田の指導を受けた選手たちが、その後どういう人生を送っているのだろうか。また柔道が自分の人生と社会の中でどう生きているのだろうか。そう思って一人一人のその後の人生に思いを寄せてみた。そこで今回は塩澤茜について述べてみたい。

塩澤茜が平成25年11月30日、協会の道場に久しぶりに顔を出した。半年前に結婚した相手のご主人までいっしょに連れて来たのである。彼はなかなかのハンサムであり、名刺には「近江高等学校教諭・男子柔道部監督・向江村和也」とあった。塩澤茜は平成14年の女子中学生の全国大会に大野中学校チームを出場させた立役者である。いつも決勝で負けていた日本一の強豪校・相原中学校チームと対戦して、何と3人の選手全員が引分けとなった時のことである。彼女が代表戦に出場したが、勝負つかずに、このまま判定だと塩澤が負けると誰もが思った瞬間、奇跡が起こった。試合終了12秒前に掛けた塩澤の背負い投げが見事に一本決まったのだ。「優勝だ」と皆が笑顔になった瞬間、何といつも厳しい真田先生が泣いていたという。そして、「大野劇的な初V」と翌日の神奈川新聞に塩澤の背負い投げの写真が大きく掲載されたのであった。

彼女は、個人戦52kg級で関東大会にて優

勝し、高校でも2年生の時に全国大会第3位に輝いた。東海大学でも柔道部で活躍。その時の同期の友が、現在のご主人である。彼女は大学を卒業すると、愛知県一宮市内の中学校の教師として勤務。現在は4年目になったという。彼女は私に真田教師のことをよく語っていた。「真田先生は中学の部活の時、いつも生徒たちの目線で考えてくれた。人生のアドバイスもしてくれた。だから、どんなに厳しくされても頑張ることが出来た」と・・・この真田先生の生徒に対する接し方、アドバイスの仕方など、自分が教師になって、その通りに、実践したのだという。それが、担任のクラスの生徒や柔道部員たちに信頼され、慕われるようになったのである。真田教師との師弟関係を考え、例えてみると「かえるの子はかえる」とも言えるのではないか。一度は落ち込んで学校を欠席していた生徒も彼女の励ましによって見事に立ち直り、高校にも入学した。「先生ありがとう。先生のこと、いつまでも忘れないよ」と言っていたという。また柔道部の顧問としても活躍。一年目は女子柔道部員を集めるところからスタートし、今では県下で第3位の選手も輩出したとのこと。さらに、真田が教えたように、勝つことの喜びを徹底して教えた結果、明るく楽しい部活になったと語っていた。久しぶりに会った彼女は生き生きとしていた。きっと人生が充実しているであろう。その日は夫婦2人で協会の中學生に稽古をつけ、指導をしてくれた。指導者の真田は、その日に限り、いなかったため、会わずに帰っていった。数日後、私が真田教師に報告をすると、彼は、塩澤茜について、思いを語ってくれた。

(続く)



向江村和也・茜（旧姓・塩澤茜）ご夫妻  
協会の道場にて